

〔假名世説〕元祿寶永の比相州にかしく坊といひし者あり、常に駿河に行きて、富士の風景をのみ
樂しむ、臨終に一首の歌あり、

ふじの雪とけて硯の墨衣かしくは筆のをはりなりけり、げにも生涯富士を愛したりと云ら
れぬ、

〔隔搔録〕富士山上略説

富士山ハ甲州都留郡ノ西南曠野ノ中ニ兀立孤絶ス、山ノ西南ハ駿州駿東郡、東北ハ都留郡ナリ、
都留郡ヨリ登ル道ヲ北口ト云ヒ、駿州ヨリ登ル路ヲ南口ト云フ、山足ノ曠野十三里許、駿州ヲ合
セバ周回三十八九里許ナルベシ、武田勝頼ノ願書ニ、三州ニ跨ルト書シカドモ、甲駿ノ外ニ跨レ
ル國ナシ、衆皆曰、駿州四分ノ三、甲州其一、ナ北口ヲ吉田口ト云、南口ヲ須走口村山口、此二口、駿東郡大宮
口富士郡ト云フ、四口各村名ヲ以テ呼ブ也、須走口ハ山上八合目ニ至リ、吉田口ト合シ、村山口ハ大
宮口ト合ス、故ニ山上ニハ南北二口アルノミ、南ヲ表トシ、北ヲ裏トスレドモ、昔ヨリ北口ヲ登ル
者多シ、略○中 毎年六月朔日ヲ山開トシ、七月二十七日ヲ山仕舞トス、サレドモ強テスル者ハ、三月
下旬ニ二合目ニ解ハ下マデ登リ、九月上旬ニモ五合目マデノボル也、略○中

マツ吉田村仙元ニ詣ズ、淺間ヲ仙元ト書事下ニ錄ス、身祿派ノ檀家ナケレバ也、吉田村淺間ノ社、合
目小室ヲ上ノ淺間ト云ニ對シテ、當社ヲ下ノ淺間ト云ナリ、

巍然タル大社ナリ、祭神三座瓊々杵尊、大山祇命、木花開耶比賣命、○中大鳥居高五丈八尺、柱間六

間、是富士山ノ鳥居ニシテ當社ノ鳥居ニアラズ、額縱七尺五寸、横四尺七寸、三國第一山ト書ス、寛
永十三年二月、曼珠院宮無障金剛入道二品親王良恕書トアリ、○中隨身門ヨリ御手洗川マデ二

十間御手洗川ヨリ大門前マデ三十五間アリ、大鳥居ヨリ富士山頂マデ三百五十七町七間半ア
リト、駿河大納言様御改ニテ定タル由、採藥小録ニ載タリ、詣人ハ登山門ヲ出テ南行ス、三町計ニ